

仕様・性能図

■エアジャッキ (TLB32)

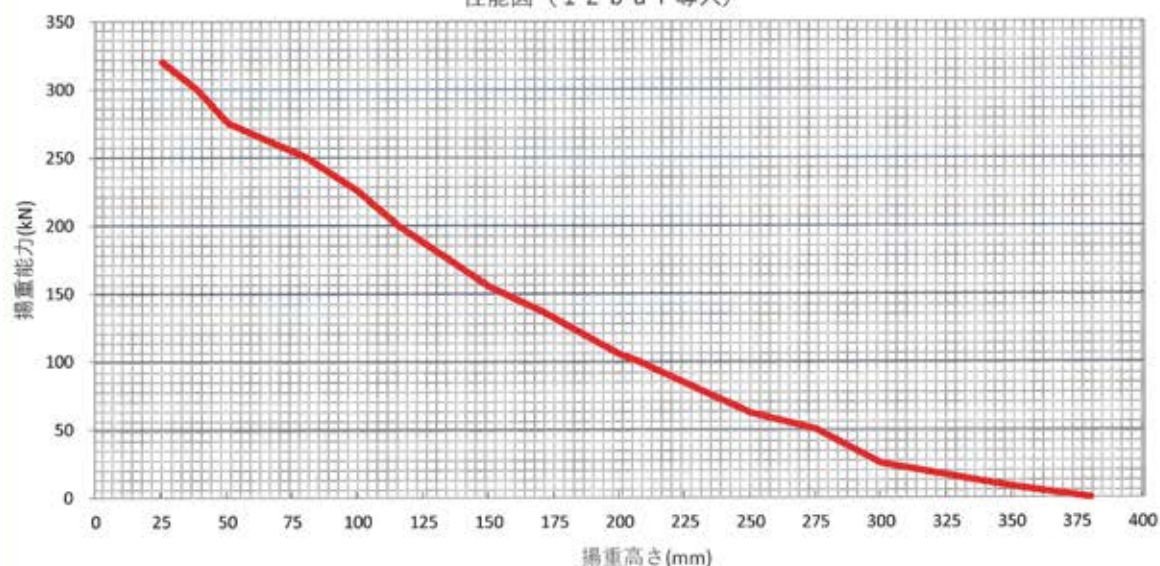


■エアジャッキ

型式	TLB32
最大揚重力	320kN
最大揚重高さ	380mm
空気容積	450L
外形寸法	658×658×25mm
質量	13kg

エアジャッキ TLB32

性能図 (12bar 導入)



■コンプレッサー



■コンプレッサー

型式	EC1445H3(CTN)		
空気タンク内最高圧力	4.4Mpa(44.9KGF/cm ²)		
吹出し空気量	一般圧	95L/min	
	高圧	80L/min	
空気タンク容量	12L		
外形寸法	328×615×337mm		
質量	15.8kg		
騒音値	パワーモード	59dB	
	静音モード	55dB	
電源	単相交流100V(50/60Hz共用)		
電源コード	3心・2.5m 3P可倒式プラグ付		

取扱方法

図 1



【エアジャッキ加圧の手順】

1. コンプレッサーの電源を入れて、エアーを溜める。
2. エアジャッキを設置して、口元に圧力ゲージとストップバルブを取付ける。
(抜けない事を確認する。ストップバルブが閉まっている事を確認する。)
3. 専用ホースを延ばして、コンプレッサーと圧力ゲージに配管する。(抜けない事を確認する。) ※図1参照
4. コンプレッサーのバルブを開放して、圧力ゲージ内の目盛の上昇を確認する。
5. ストップバルブを開放して、エアジャッキを加圧する。
(荷重については荷重換算表で確認しながら、加圧する。)
6. 計画値まで荷重を導入後、ストップバルブを閉めてから、コンプレッサーのバルブを閉める。
7. コンプレッサー～圧力ゲージまでを撤去する。(荷重はストップバルブにより保持される。)<加圧完了>

【エアジャッキ除圧の手順】

1. ストップバルブを開放して、エアジャッキ内のエアーを除圧する。
2. エアジャッキが縮んで、撤去できるタイミングでエアジャッキを取り外す。<除圧完了>

施工例（固縛・振れ止め）



ボックス内側面にエアジャッキを選定

超高層ビルの解体工事でエアジャッキを使用。
解体工事は既存柱を利用したジャッキシステムにより施工。
エアジャッキは既存柱に被せているボックスの内側に設置し、
既存柱にボックスを設置後、グラつきや転倒を防止する為に、
選定した。



エアジャッキ設置状況

ボックス内側面に1台ずつを設置しており、エアジャッキ用取付
フレームでエアジャッキ本体を固定した。ボックス内のエアジ
ャッキ2台は同圧により、加圧及び除圧を行った。



エアジャッキを加圧してボックスを固縛

既存柱にボックスを設置後、エアジャッキを約5t加圧して、
ストップバルブで保持する事で既存柱とボックスを固縛した。
施工後は既存柱からボックスを取り外す為、ストップバルブを
解放して除圧を行う事で、既存柱とエアジャッキ間に隙間を設
けて、ボックスを撤去した。